

令和4年度

事業報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

令和4年度 事業報告書

目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	3
1 研究活動	
（1）研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
（2）鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
（1）指導法に関する講習会の開催	
①音鑑・夏の勉強会2022	
②音鑑・冬の勉強会2022	
③音鑑・ICT勉強会	
（2）研究大会・講習会等の後援	
（3）広報活動	
3 出版	
（1）季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
（2）書籍、映像資料の発行	
II 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業（公益目的事業2）	7
1 助成研究募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	8
1 財団保有の音楽関連資料の活用	
2 財団主催コンサートの開催	
3 財団後援コンサート	
4 電子書籍・音楽鑑賞ノートの販売	
5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
6 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	10
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	10

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

1 研究活動

(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

令和3年度に冊子にして出版した「よくわかる！ 音楽鑑賞の授業づくり」の内容に基づいて、授業づくりの具体例（事例）とポイント（留意点）を学習評価を中心にまとめた。

（DVDブック事例集5「オーケストラの音楽Ⅱ」として令和5年3月に出版）

なお、昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほぼオンラインによる小中各部会開催とした。

上記以外に財団の主催講習会である「音鑑・夏の勉強会2022」におけるグループ研修を企画立案した。

No.	開催日	検討内容
第1回	令和4年 4月30日（土）小学校部会 4月24日（日）中学校部会	・オーケストラの音楽を教材とした事例の検討 ・夏の勉強会オンライン・ミーティング：内容検討
第2回	5月14日（土）小学校部会 5月8日（日）中学校部会	・オーケストラの音楽を教材とした事例の検討 ・夏の勉強会オンライン・ミーティング：内容検討
第3回	6月12日（日）小学校部会 6月18日（土）中学校部会	・オーケストラの音楽を教材とした事例の検討 ・夏の勉強会オンライン・ミーティング：内容検討
第4回	7月10日（日）小学校部会 7月3日（日）中学校部会	・オーケストラの音楽を教材とした事例の検討 ・夏の勉強会オンライン・ミーティング：内容検討
第5回	9月17日（土）小学校部会 9月4日（日）中学校部会	・オーケストラの音楽を教材とした事例の検討 ・10月以降の研究内容について
第6回	11月23日（水・祝）小学校部会 10月2日（日）中学校部会	・学習評価の具体に焦点をあてた事例に盛り込む内容の検討
第7回	12月18日（日）小学校部会 12月4日（日）中学校部会	・学習評価の具体に焦点をあてた事例に盛り込む内容の検討（指導と評価の課題の洗い出し）
第8回	令和5年 1月28日（土）小学校部会 2月19日（日）中学校部会	・指導と評価の課題の洗い出し
第9回	2月23日（木・祝）小学校部会 3月26日（日）中学校部会	・指導と評価の課題の洗い出し
第10回	3月21日（火・祝）小学校部会	・学習評価の具体に焦点をあてた指導事例の検討

研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

区分	名前	職名・役職
主管	藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	井上 奈々	東京都千代田区立千代田小学校主任教諭
	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手東小学校教諭
	清水 達也	東京都港区立麻布小学校指導教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立太尾小学校校長
中学校	安部 文江	長野県小諸市立小諸東中学校教諭
	小川 大輔	広島県三原市立本郷中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立御成門中学校主任教諭
	高道有美子	東京都世田谷区立芦花中学校主任教諭
	水谷 愛	埼玉県川越市立鯨井中学校教諭

(2)鑑賞指導に関する調査

各地で実践されている音楽科の授業や、音楽科で今後必要とされるICT教材、教具に関する情報収集を行った。

2 普及活動

(1)指導法に関する講習会の開催

①音鑑・夏の勉強会2022

音楽鑑賞の指導について、授業づくりのための研修を、昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターネット講習（オンデマンド動画配信、オンライン・ミーティング）で開催した。

日程：

《講習1》オンデマンド動画配信：令和4年7月29日(金)～8月12日(金)（15日間）

《講習2》オンライン・ミーティング：令和4年8月20日(土) 11:00～16:00

受講者：

《講習1》オンデマンド動画配信：150人

〈内訳〉小学校教員91名、中学校教員37名、その他22名

《講習2》オンライン・ミーティング：14人

〈内訳〉小学校教員7名、中学校教員7名

内容：

《講習1》オンデマンド動画配信：

(1) 講演「鑑賞指導の進め方Ⅱ」

(2) 講演「GIGAスクール構想でのICT端末活用」

(3) 講演「鑑賞の指導と学習評価のポイント」

《講習2》オンライン・ミーティング：

(4) グループ研修「指導と評価の場面について具体的に考える」

小学校グループ 教材：「こきりこ」

中学校グループ 教材：「魔王」

講 師：

- 藤沢章彦（財団理事、元国立音楽大学教授）（１）
- 西田光昭（柏市教育委員会教育研究専門アドバイザー）（２）
- 勝山幸子（東京都港区立御成門中学校主任教諭）（３）
- 館 雅之（神奈川県横浜市立太尾小学校校長）（４）
- 井上奈々（東京都千代田区立千代田小学校主任教諭）（４）
- 安部文江（長野県小諸市立小諸東中学校教諭）（４）
- 水谷 愛（埼玉県川越市立鯨井中学校教諭）（４）

後 援：

全日本音楽教育研究会

②音鑑・冬の勉強会２０２２

財団の研究成果の発表と音楽科教育の今日的な課題や情報を共有すると共に、音楽の視野を広げる場として開催した。昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターネット講習（オンデマンド動画配信）の形で行った。

日 程：

令和４年１２月１４日（水）～２８日（水）（１５日間）

受講者：

- １２５人 〈内訳〉 小学校教員５３名、中学校教員４５名、
高等学校教員６名、その他２１名

内 容：

- （１）講演「新学習指導要領及び新観点による評価から見えてきた成果と課題」
- （２）講演「教育社会学から見た音楽文化」
- （３）講演「現代に息づくさまざまな日本の民俗芸能」
- （４）助成研究発表「問題発見・解決能力を高める音楽授業の授業デザイン」
- （５）実践発表「G I G Aスクール構想における音楽科授業でのICT活用」

講 師：

- 河合紳和（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）（１）
- 西島 央（青山学院大学教授）（２）
- 小岩秀太郎（全日本郷土芸能協会理事兼事務局次長）（３）
- 齊藤貴文（北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程教諭）（４）
- 北川真里菜（和歌山大学附属小学校教諭）（５）
- 酒井哲志（東京都品川区立大原小学校主任教諭）（５）
- 板橋 薫（宮城教育大学附属中学校教諭）（５）
- 田那辺祐希（東京都文京区立第八中学校教諭）（５）

後 援：

全日本音楽教育研究会

③音鑑・ICT勉強会

教育現場へのICTの普及が進み、ICT入門編としての本勉強会は一定の役割を果たしたと考えられる。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点もあり休止した。

（２）研究大会・講習会等の後援

- 書籍「よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり」に基づいた鑑賞指導の講習会への講師派遣。

学習指導要領と学習評価に基づいた音楽鑑賞の指導、授業のあり方の改善を目指して、各地区の音楽研究会等が主催する講習会に講師を派遣した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン講習のみとした。（３件／参加人数：約１４０名）

- ICT活用のための講習会への講師派遣

著作権等によりオンライン開催が難しく、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から派遣を見合わせた。

(3) 広報活動

- 事業案内パンフレットの配布

事業案内パンフレットを制作し、約2,500部を教員に配布した。

- 全日本音楽教育研究会全国大会山口大会に出展し、参加教員に対し事業を広報した。

- 広告掲載

各音楽教育研究団体研究大会の紀要等へ広告を掲載した。全日本音楽教育研究会全国大会他14件。

- インターネットの活用

ウェブサイト「ONKANウェブネット」やメールマガジン、SNSを通して、事業情報や音楽教育に関わる情報をタイムリーに発信するとともに、ONKANウェブネット会員登録者(約2,700人)には「音楽鑑賞教育」誌のバックナンバー記事など授業に役立つ情報も発信した。

3 出版

(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

年4回、季刊「音楽鑑賞教育」(V o 1. 49~V o 1. 52)を発行した。特集テーマは、編集会議を設定して、実践的な授業づくりについて、いろいろな角度から検討して決定した。

また、授業づくりに役立つよう教科書掲載の教材を中心に、教材研究に役立つ情報「教材ノート」、その教材を扱った展開例「私のレシピ」を毎号3曲取り上げた。

令和元年度のV o 1. 39から公募を始めた「私が工夫している授業紹介」は、子どもたちの学びに効果のあった授業、ICTを活用した授業などを引き続き募集し、応募実践を編集会議で検討して掲載した。

分かりやすい誌面づくりの一つとして、表紙および本文デザインをリニューアルするとともに、教員歴の若い教員にも読みやすいものとなるように、写真やワークシートの掲載を増やしたりするなど誌面構成を工夫した。また、引き続き編集作業は内製で行い、外部流出費用の削減を図った。

V o 1.	通巻	発行日	特集「音楽の授業づくり」
49	553号	令和4年 4月1日	音楽の世界が広がる総合芸術の学習
50	554号	令和4年 7月1日	音楽科とインクルーシブ教育
51	555号	令和4年10月1日	題材の目標と評価をとらえた授業設計
52	556号	令和4年 1月1日	G I G Aスクール対応！ 音楽授業でのICT活用

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名 前	職 名・役 職
石上 則子	元東京学芸大学准教授
大熊 信彦	東邦音楽大学特任教授
加藤富美子	東京音楽大学客員教授
藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

(2)書籍、映像資料の発行

- 令和3年度に冊子にして出版した「よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり」の内容に基づいて、授業づくりの具体例とポイントを学習評価を中心にまとめて冊子にし、財団が過去に収録した映像資料から使用可能な演奏映像をデジタルリマスターしてDVDにして、DVDブック事例集5「オーケストラの音楽Ⅱ」として発行した。
- 2019年度「第52回 音楽鑑賞教育振興 論文・作文募集 研究助成の部」に入選された齊藤貴文氏（北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程教諭）による、2020年度から2021年度の2年間にわたる研究の報告書を、音楽教育研究報告 第32号「問題発見・解決能力を高める音楽鑑賞の授業デザイン ～PBLの学習過程を活用した鑑賞授業モデルの検討」として出版した。

Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業 (公益事業目的2)

定款第45条（選考委員会）の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。令和4年度の選考委員会は任期2年の1年目となり下記3名の方に委嘱した。なお、選考専門委員は、下記3名の方に、審査顧問を下記1名の方に委嘱した。
※選考委員長とチーフを除き五十音順、職名及び役職は令和4年10月現在、敬称略

選考委員

辻村 哲夫	選考委員長／元文部省初等中等教育局局長／財団常務理事
河野 正幸	聖徳大学教授
嶋 英治	元福島大学特任教授

選考専門委員 ◎：チーフ

◎藤沢 章彦	元国立音楽大学教授／財団理事
小佐野 圭	玉川大学教授／全日本音楽教育研究会常任理事
加藤富美子	東京音楽大学客員教授

審査顧問

福井 直敬	武蔵野音楽学園理事長／全日本音楽教育研究会会長
-------	-------------------------

1 助成研究募集

①募集テーマ

研究助成の部 「鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究」

②実施期間

募集期間：令和4年 7月 1日～ 9月30日

審査選考：令和4年10月上旬

令和4年10月 7日～11月10日

令和4年11月23日

入選発表：令和4年12月 1日

令和5年 4月 1日

第1回審査委員会（書面開催）

審査・第2回審査委員会（対面開催）

最終選考・選考委員会（対面開催）

ONKANウェブネット及び郵送通知

入選研究計画発表

（季刊「音楽鑑賞教育」V o 1 . 5 3）

③応募状況

応募数 4件

④審査基準

次の(1)から(4)までを満たす研究計画である

(1) 鑑賞領域の学びを中心としている

(2) これからの音楽科教育に資する内容である

(3) 授業実践による検証を伴った研究である

(4) 研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである

⑤入選結果

入選 1件

入選者 広島大学附属三原中学校 井上 翔太（個人研究）

研究テーマ 探究的に音楽を鑑賞し、質的な深まりと自分なりの価値を見いだす授業の研究
～多様な対話を通して～

⑥副賞

助成金 500,000円

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計6件に対して賛助を行った。

Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業

（公益目的事業3）

1 財団保有の音楽関連資料の活用

松本記念音楽迎賓館のファンクラブの会合や館内見学の折、音源を使い、高品位の再生装置（TADシステム）での鑑賞を行なった。また館内の音楽資料室をご案内した。

2 財団主催コンサートの開催

- ①玉川高島屋を活動拠点にするコミュニティクラブたまがわとの協力関係で、フルートの魅力と種類を伝えるフルートアンサンブルのコンサートを実施した。

演奏とお話は財団の企画意図を実現することのできる“クァチュオール・アコルデ”
2月12日 一般3000円 中学生以下2000円 未就学児1000円 入場60名満席

- ②松本記念音楽迎賓館の施設を使い、新型コロナウイルスの感染対策を徹底した上で、下記のレクチャーコンサートを実施した。

- ブラームスとの新たな出会い ～その構築性の魅力を探る～ チェロソナタ第一番による

9月3日 チェロ：加藤文枝 ピアノ：小澤佳永 一般4000円 有料入場49名 満席

- そうだったのか！？ マリンバの世界

12月17日 マリンバ：三村奈々恵 一般4000円 中学生以下2000円 入場23名

3 財団後援コンサート

下記のコンサートは、実施目的が各種音楽を紐解く普及目的であり、企画内容も優れ、入場料など、財団が支援するにふさわしいと判断し、後援名義を許諾した。

- 2022～2023「シューマン物語」・「ベートーヴェン物語」 主催：みむみむの森
松本記念音楽迎賓館を含む全国展開で年間を通して開催

- 2022年9月2日～3日「世界の歴史を学ぶ音楽旅行」@日暮里サニーホール

主催：テンポル・バート

- 2022年10月15日「藤舎花帆リサイタル 月をめでる」@日本橋公会堂

主催：游雅オフィス

4 電子書籍・音楽鑑賞ノートの販売

音楽をより楽しく鑑賞し深めるための電子書籍「聴いて発見！クラシック音楽のひみつ」シリーズおよび音楽鑑賞ノート「My Music Memories」について、販売を行った。

5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

- 音楽に関わる人の育成

例年通り、Aホール等の空いている時間帯を、レッスン利用と称し、使いやすい価格での貸与を通して、音楽愛好家の底辺を広げ、より身近な音楽鑑賞の機会を提供することに結びつく演奏者の育成に努めた。

- コンサートの支援

松本記念音楽迎賓館を活用する演奏家が、演奏会を安心して開催できるよう、運営を手伝うなど、共催制度を活用した。また、桜の季節の平日は、館ご利用の常連の演奏家による友の会会員に対し、特別料金で演奏会の場を用意、松本記念音楽迎賓館への来場者を増やすよう努めた。加えて、新型コロナウイルスの影響で、演奏活動に経済的な不安を抱える演奏家や主催者に対し令和4年1月から利用しやすいコンサート特例を設けた。この対象はお客様からのチケット収入で成り立っているコンサートのみとし、演奏技能発表会には適用していない。その結果、コンサート利用の回数は先期の175%に増加している。

新型コロナウイルス対応については、昨年度に引き続き、クラスター発生防止のため除菌装置の利用と、徹底したお客様への協力依頼を行った。

6 チェンバロ音楽普及の支援

松本記念音楽迎賓館での開催で恒例となった「チェンバロの日」。昨年度は日本チェンバロ協会

10周年を記念して開催された。ゴルトベルク変奏曲のリレーコンサートには小林道夫氏も参加。日本チェンバロ協会の発展のための支援を続けることができた。その他、チェンバロの弾き合い会に協力したり、後進の指導の場としての松本記念音楽迎賓館の貸し出し協力を行った。

IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

1 岡本地域緑地の保全活動

世田谷区の保存樹林地に指定された松本記念音楽迎賓館の庭園を保全した。

2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座は、新型コロナウイルス感染対策を行いつつ、下記の内容で、NPO法人せたがや水辺デザインネットワークの実施協力で開催した。森林の形態や植物の説明は、世田谷区の小出仁志氏はじめ専門家の実地指導で行われた。

講座名	開催日	講座内容	受講者数
第1回	4月24日(日)	松本記念音楽迎賓館の植物 崖線樹木の機能と役割	16名
第2回	10月23日(日)	崖線の秋の植物、周辺の水辺と湧き水 水の流れと水辺の生き物	20名
第3回	12月11日(日)	クリスマスリースの素材 知る地域の 自然	23名

(各回 4時間)

V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

音楽鑑賞振興財団が保有する松本記念音楽迎賓館の諸施設を、公益事業目的Ⅲ以外の目的で貸与し、収入を得ている。

収入の核となるドラマの撮影日数は、先期の60%ととなり、収益の目論見を下回った。閑静な住宅街であり、ご近隣に配慮した形で撮影を受けているが、本年度は門回りの撮影について、撮影条件を狭めたことで、ロケの打診はあるもののお断りせざるを得ないケースが数件あった。

お茶会は新型コロナ禍でのご利用はなく、お茶室を使った日本文化体験会などの場となった。

結婚式のご利用を計り、ブライダル業者と協議して、分かりやすいパンフレットなどを用意したが、館内見学に至るケースはなかった。今後、音楽結婚式を取り込みたい。